

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

鶴 貝 大 祐

○埼玉県鴻巣市

学力向上の取組み及びICTの効果的な活用について

【所見】

GIGAスクール構想によって、小中学生一人一人に1台ずつのタブレット端末の配布は進んだが、文部科学省が推奨するクラウドの活用は広がっていない。そのような中、2021年度から教育ICT基盤をフルクラウド化したのが、埼玉県鴻巣市である。

もとより鴻巣市は、文科省がGIGAスクール構想を打ち出す以前から「鴻巣市学校教育情報化推進計画」を策定して、児童生徒に1人1台の学習用端末を自費財源で導入し、先端技術を活用したフルクラウド環境の整備や、教員の業務改善を柱に掲げるなど、教育情報化を推進する先進地として、様々な媒体に取り上げられていた。

この度の視察は、このフルクラウド化の恩恵によって、いつでもどこでも学び働ける教育ICT環境を構築したことで、教育の質の向上を具現化した先進地であると私自身認識しながら臨んだのだが、実は成果のカギとなっているのは教育委員会学校支援課の教育情報化への明確なビジョンと熱意によるところが非常に大きいというのが実感である。ICT環境をどれだけ整備しても、「学校現場の教職員」がその活用に消極的では無駄な投資となる。学校支援課では教職員と課題の共有を図りながら、ICTをいかに最大限効果的に運用し実践していくのか、あるいは日常的な活用を定着させながら、教員間の指導体制の平準化をどのように図ってゆくのかなど、詳細で緻密、そしてチャレンジングな支援体制を構築し推進していることが成果に強く結びついているのだと深く印象に残った。

おそらく本市に限らず多くの市町においても、ICT環境の拡充とその効果的活用をいかにベストミックスさせるかが最も悩ましい課題であると思われる。そのためには、本市においても教育情報化への「具体的で明確」なビジョンを掲げ、すべての教職員が共通理解を図るとともに、教育情報化推進のための動機づけを高めていくことが必要なのではないか。さらに先端技術を活用したフルクラウド環境の整備は、すぐにでも

導入の検討を始めるべきであると感じた。

○神奈川県小田原市

まちのコイン「おだちん」事業について

【所見】

SDGsに掲げられている目標のひとつに「住み続けられるまちづくりを」がある。持続可能な地域社会を形成していくためには、様々な視点からも必要不可欠な考え方である。

まちのコイン「おだちん」は、小田原市がSDGs体感事業として神奈川県と連携して導入を進めたもので、令和2年2月に実証実験を開始し、その年の夏に本格導入された。地域のお店や企業・団体が加盟スポットとなり、アプリに掲載する。そして「人と人」「地域と人」が繋がることに関するイベントへの参加や行動をすることで、ユーザーはアプリ上でコインを貯めることができる。こうして貯まったコインは、店舗等のスポットでサービスや体験と交換することができ、「地域活性化」や「SDGsの自分ごと化」に繋がるという仕組みである。アプリをダウンロードすれば自分の居住地以外のコインも貯めることができる。

地域コミュニティ通貨を活用することで、地域や人との繋がりが深まることはもちろんだが、その地域に住んでいない人も、ただその街を訪れるだけでなく、このコインを使って一步踏み込んだ地域体験ができ、それによって顔見知りができたりするなど、地域の個性により深く触れることができる。ひいては活発な人流をもたらす事も狙いの一つなのだろう。

この度の視察を通じて特に感じたのは、小田原の人の地域愛である。地域における様々なイベントを企画するなど、地域のために精力的に活動を展開することによって「おだちん」は循環していく。「おだちん」の原動力は、地域を盛り上げたいと思う多くの市民の力で成り立っており、だからこそ、そのようなまちは進化を遂げていくのではないかと。

本市においても足利氏関連の文化財、そして日本最古の学校である足利学校など、他市に引けを取らない歴史と文化があり、市民もこれを誇りにしている。様々な危機に直面しても乗り越えることができる「持続可能な観光」を実現していくためにも、地域コミュニティの繋がりを深めることや、自分の住む地域が持つ魅力、地域の人々に今一度目を向け

る機会とするためにも非常に有効なツールであると感じた。